

令和3年度 印西市民アカデミーだより

第11号

印西の歴史散策 10 (船穂 / 結縁寺)

毎年9月28日は、結縁寺の御開帳が行われる日です。今回は、この御開帳の見学を目当てにコースを設定しました。コースは、船穂コミュニティプラザ→白山神社→名馬塚→結縁寺→頼政塚→船尾コミュニティプラザ(約4km)です。



結縁寺

奈良時代初期、行基によって創建されたという結縁寺は、その昔は、広大な寺域に六坊を有する大寺でした。しかし、天正18年(1590)に兵火にあい、その後衰退していったと伝えられています。寺名は、平安時代の天慶年間(938~946)に寺に入った真言宗の僧が春秋二度の「結縁灌頂」という仏縁を結ばせる儀式を行ったことに由来するといわれています。



銅造不動明王立像

本堂には、鎌倉時代後期に造像され、国の重要文化財に指定されている銅造不動明王立像が安置されています。国指定の文化財の不動明王の中で、銅像はこの像を含め3象しかなく大変貴重なものです。



名馬塚

結縁寺の西南にあるのが、頼政の首を運んできた馬を葬ったといわれている名馬塚です。以前はお堂が建てられており、その中に納められてたと伝えられています。

治承4年(1180)、平家打倒に挑んだ源三位頼政は、挙兵に失敗し、宇治平等院の境内で自害したといわ



頼政塚

れています。この頼政の首を埋めた場所として伝えられているのが、結縁寺の東南300mの山林にある頼政塚です。

この塚には糸が供えられていて、農作業で手首が痛くなった時に、この糸を巻きつけると不思議に治ると言われています。

富士山・立山と並ぶ日本の三名山の一つ「白山」。古来より人々は、白山を「白き神々の座」と信じ崇めてきました。



白山神社

土地の人たちは、この神様をイボ神様と呼び、イボができると石の上に備えてある縄を自宅に持ち帰り、イボをこすって治したそうです。治ると、また新しい縄をお供えしました。